

# 二ヶ領用水を歩く

## 散策MAP

**二ヶ領用水いまむかし**

昔、多摩川は洪水を繰り返す暴れ川で、しかも水利が不便なうえ農業基盤も弱いものでした。そこで約400年前の慶長2年（1597）、徳川家康の命を受けた用水奉行小泉次太夫が、地域住民の協力のもと14年をかけて二ヶ領用水を完成させました。堤防を築き、農業用水を引いたことで新田開発が進み、米の収穫量が大きく伸びたと伝えられています。

明治になると横浜水道にも分水され、工場が増えてくると工業用水に利用されるようになりました。戦後は急速に都市化が進み、農地は減少しましたが、いまでも川崎市北部ではわずかながら農業用水として、下流の地域では環境用水として利用されています。二ヶ領の名は江戸時代、川崎と稲毛の二つの領にまたがって流れていることに由来しています。



### 多摩水道橋

昭和28年に東京都が架橋。現在掛け替え中。東京都（世田谷区・目黒区や大田区の一部）に一日20万トン以上給水している

### 登戸の渡し跡

登戸と対岸の狛江とを結ぶ旧津久井街道の渡し場。江戸時代後半には多摩川梨などの果物、津久井の絹、黒川炭等々の特産物、石材なども運ばれた

### 旧道津久井街道

登戸駅の裏手西側を旧津久井街道が通る

### 宿河原の桜並木

約2キロにわたって両岸に桜並木が続く。地元の二ヶ領用水宿河原堤保存会の手によって守られ、春には一面桜のトンネルとなる



### 八幡下堀樋

この一帯の水田を宿河原本線から分水して灌漑していた



奥に礫が広がる浄化施設。浄化にはフナやタニシも一役買っている

### 多摩川情報センター(仮)

平成12年3月オープン。川づくりを考える流域市民の活動拠点となる予定

### 川崎市緑化センター

水路を挟んだ緑地公園では四季折々の自然が楽しめ、散策路も設けられている



### 鷹匠橋

近くに「御鷹部屋」があったことに由来

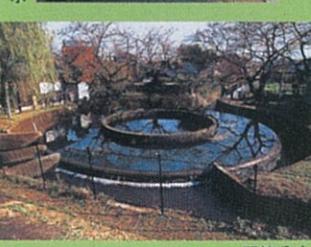


### 堤防跡

多摩川と新平瀬川河口合流点からこの付近まで斜めに土手が続いている。これは多摩川で最初に造られた近代堤防だった



## コラム3 平瀬川浄化施設



円筒分水

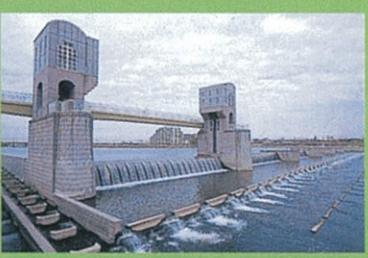
平瀬川の汚濁水を浄化して多摩川本流に流す施設で、水を河川敷に敷き詰めた礫（小石）のなかを通過させ、水中の有機物を除去します（礫間接触酸化法）。

平瀬川合流点から田園都市線鉄橋下まで6基の大規模な浄化施設が埋め込まれています。川の自浄作用を利用してるので、維持管理費はほとんどかかりません。平成2年に完成し、現在まで安定した稼働を続けています。

## コラム2 久地分量樋と円筒分水

久地で合流した二ヶ領用水は、灌漑面積に応じた極端な差異があるため、灌漑面積に応じて水門によって4筋に分水されました（久地分量樋）。しかし昭和16年、より正確な分水のため、約200メートル下流に円筒分水が設けられました。

## コラム1 宿河原堰



現在二ヶ領用水の取り入れ口は上河原と宿河原の2カ所で、2つの用水は高津区久地で合流します。宿河原の取り入れ口は寛永6年（1629）に設けられ、現在の新宿河原可動堰は1999年に完成予定で、大きさは横幅219.6メートル、堰本体には化粧型枠を用いて石張り風に仕上げ、周辺の景観との調和を図っています。電動式の起伏ゲート5門と引き上げ式ゲート1門からなり、ゲートを操作して水量を調節します。自然・環境・生態系に優しい工法を目指し、両岸に魚道も設置されています。

## コラム1 宿河原堰

## コラム1 宿河原堰